

# 令和２年度第１回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	令和２年９月２８日（月）
開催場所	新庄市役所 301・302 会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、齊藤浩昭委員、奥山京子委員
欠席者	なし
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、伊藤主幹、鈴木教育総務主査、佐藤主事
議 事 の 大 要	

午後３時２５分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

## 1. 開会

## 2. 市長あいさつ

## 3. 協議

新型コロナウイルス感染症対策と学校における教育活動について

（市長）新型コロナウイルス感染症対策と学校における教育活動について説明をお願いします。

（学校教育課長）はじめに新型コロナウイルス感染症対策は、大変広い領域でございますので、あとで述べさせていただきます課題についてご理解いただきましてご意見を頂けましたら幸いです。具体的には第２波を予測することや、この冬はインフルエンザと同時期になるということや、学校においてはクラスターとなる可能性も想定しての対応となります。その他学校に対する要望とか心配なこと等ございましたらいろいろ教えていただけたらありがたいと思います。では初めに「趣旨」から説明させていただきます。これまでの学校における感染防止対策について、現状と課題を明らかにし、今後、感染リスクはゼロにならないことを受け止めつつ、感染レベルを可能な限り低減させながら、どのように学校教育活動を継続していくか、検討するというところでございます。２番のこれまでの「教育委員会の取り組み」につきましては、いろいろな場で、例えば定例教育委員会等で報告させていただいた内容であります。この１ページの内容につきましては、１月３０日の通知に具体的な内容を記載させていただいております。２月２８日に臨時休業を通知し、３月２日から実施いたしました。資料の２ページをご覧ください。ここでも主なもののみ紹介させていただきます。中段の５月８日ですが５月１８日からの段階的な学校再開を通知させていただきました。２５日から部活動をするということになります。５月１１日に始業式・入学式を実施いたしました。なお、この日ですが、複数の人が自主的に感染防止のため休むということがございました。５月１５日ですが、一斉登校について通知ということで、段階的な分散登校から６月１日一斉登校するという内容を示させていただきました。１番最後に８月夏休み・始業式ということで、８月１６・１７日から２学期が始まりまして現在に至ります。資料３ページをご覧ください。はじめに中止となった学校関係の対外的な行事について主なものを記載させていただいております。３番「学校等へ

の支援」であります。国・県・市からの学校への支援ということで、大きく8点、マスクの配布から人的な配置までまとめさせていただきました。4番の「学校の取り組み等」について進めさせていただきます。はじめに休業中についての主な内容は、家庭との連携ということで、家庭での学習の保障、教科書給与、それから心身の安定ということで教職員の方々、電話や家庭訪問等で児童生徒に係る時間それから保護者と連携をとる時間を多くとりました。実際、児童生徒はこの臨時休業中におきましては、不要な外出をしない、密集して遊ばないという約束ごとを大変よく守っておりました。電話や家庭訪問をすると、ほとんど子供たちは家に居たという状況が報告されております。資料4ページをご覧ください。この休業中ですが、やはり児童・保護者の心配な点としましては、学習が遅れることが心配、部活の技術を取り戻せるか心配、受検・夏休みや行事等に対する不安等の声がございました。それから教職員からは体力が落ちているのではないかとということで、ここに記載していますのは教職員の印象でございます。すぐ疲れるとか、怪我が多くなってきたとか、具体的な体育や部活動の指導で体力が低下しているのが分かるという声でございました。次に再開した後のことでございますが、心のケアということで、以下、偏見・差別・それから新しい生活様式等についてまとめてありますが、主なものだけ紹介させていただきます。はじめに心のケアについては、休業中も再開後も含め、ストレスはあるということを学校ではとらえております。例えばですが、ある学校では全員と面談をしております。また、アンケートをとって児童・生徒の様子を把握して指導しております。偏見・差別につきましては、感染症の正しい知識の学習、それから資料を活用し紙芝居・掲示など発達段階に応じて指導したということもございました。それから学校でマニュアルを作成して、全校歩調を合わせて指導したということもございました。新しい生活様式につきましては、文科省等から出る資料を参考に市からもいくつか通知をしておりますが、健康に関すること、学習環境・活動に関すること、消毒に関すること、教育課程に関すること、職員に関すること、それぞれについてここに記載のあるとおり学校で取り組んでいただきました。特にここでは「ウ 消毒に関すること」で、例えば給食前の消毒をアルコールですとか、児童生徒の共有部分を定期的に行うとか、大変教職員の方に頑張ってもらいました。なお、この記載にはありませんが8月6日文科省の見直しということで、消毒については一部見直しがございます。例えば、清掃時に発達段階に応じて子供たちがその消毒作業を加えても良いなど様々な見直し事項がございました。5ページをご覧ください。教育課程についてでございます。教育課程については5月の段階で授業時数の確保は可能と判断し、各校で見直しをして、現時点では土曜日授業は考えずに通常通りに授業を行っております。行事それから休業日等については、例えば修学旅行につきましては、行先や時期を見直し再検討しております。例を挙げますと関東方面から東北に変更した学校、または今年度の計画を来年度に実施する学校などがあります。ほかに文化祭を中止した学校もございます。また、合唱祭等を行っている学校については、発表会の内容について人数制限や会の持ち方を工夫している学校があります。また、読み聞かせ等を含めましてボランティアの活動について、外部の方の来校についてまだ延期している学校もございます。先ほどの教育課程と関わりますが、卒業式の後には授業日を設定している学校も一部ございます。最後に「課題と今後の対応」について説明させていただきたいと思っております。全国的に状況は日々変わっております。学校は感染症の終息まで長期化していくことを想定し、感染防止対策と教育活動の両立を図っていく必要があります。また、学校関係者に感染者が出たり、感染が拡大するなどした場合に備える必要があります。以上のことを踏まえまして、以下の大きく3点の課題について対応していきたいと考えております。1点目は「一人一人の学びを充実させるため、ICTを有効に活用する」ということでございます。

この度、一人1台のタブレットが今年度中に配備されることを踏まえまして、これらの学習を充実させる必要があります。端末が整備されたら、すぐ学習に活用できるようにしたいのですが、現時点では教職員のスキルや意識、児童生徒の操作など個人差への対応、学校へのICT支援が現時点ではまだ十分とはいえません。今後、子供たちが有効なアプリを使って学習ができますよう、例えば調べ活動に有効なアプリ、表現活動に有効なもの、交流活動等これらが日常的に行えるように教職員研修の充実とICT支援員等の配置について、今後検討していくことが必要と考えます。また、家庭での学びということで、この感染対策のために学力格差が拡大してはなりませんので、臨時休業を想定した場合、オンラインでの学びについて準備したいと考えます。現状の課題は①と同様ですが、休業中であっても、担任とクラスメイトがオンラインでつながり、朝の会や学習などができるようにしたいと考えております。最後のページになります。大きな2つ目ですが、児童・生徒・教職員の健康保持と心身のケアをする必要があります。児童生徒につきましては、教育課程が変更になりまして、一部教師主導の授業、それから感染対策のためにグループでの活動が制限されることがございますが、それによって子供たちに学習の負担をかけてはならないと考えます。また、疲れやストレスについて、一人一人の状況を把握し寄り添った指導をしたいと考えます。養護教諭やスクールカウンセラー等チームでケアに努めて参ります。なお、感染症に関する差別、いじめ、偏見はあってはならないので、今後も継続して指導をして参ります。教職員につきましては、実行することは教職員も児童生徒と同様であります。この6月7月は、学年始めの業務が集中したことと消毒の実施により、在校等時間が大幅に増えました。月に80時間を超える職員も複数いました。ということで大きな負担があったことは事実であります。9月10日も行事が続きまして多忙な日々が続くと思います。改めて勤務時間の管理を行い、健康管理をしていきたいと考えます。大きな3つ目ですが、「学校関係者に感染者が出た場合や、臨時休業になった場合、適切な対応をする」ということであります。はじめに感染した場合ですが、原則としてこれまでも通知している手順に従って対応していただきます。なお感染者が出た場合、消毒の方法については、ここに記載しているとおりであります。原則としては教育委員会職員と教職員による消毒であります。現在、必要な道具等については保健所等のやり取りで確認中であります。2つ目はプライバシーの保護についてですが、県の指導により、学校を閉鎖する場合の理由は「保健所の指導により一時閉鎖」ということで統一しております。該当者の有無についても公表できないことは、各校から保護者に通知を行っていただいております。ただ、プライバシー保護と児童生徒の保護者の不安に対する説明の両面から判断する必要がありますので、もし学校がクラスターになった場合やマスコミで公表されている場合については、その限りではないと考えております。最後に保護者の連携については、今後も健康観察、家庭学習等については、家庭の協力をいただきたいと考えております。これからも正確な情報を随時提供していきたいと考えます。そのためにも、学校は日常的にホームページの有効な運用を進めていき、必要な時に情報提供できるようにしていきたいと考えております。

(市長) コロナの発生から、これまでの取り組みの内容を説明いただきました。学習環境をどう捉えたらいいかかわからないということが一番大きかったのかなと思います。リモートワークとかテレワークといった言葉も出てきて、実際どうやるのかなとも思いました。3月に緊急事態宣言がでて、子供たちは途中から学校に復帰はしましたが、学校はどうなるのだろうと思ったかもしれません。その辺の感想を皆さんからお聴きしたいと思っております。

(山村委員) 学校の入学式、そして始業式が始まったとき、やはり学校には子供がいないとだめだなという感じを受けました。今年初めて子供たちが学校前の信号を通過した姿をみた時、感動的な声がありました。私もそのような気持ちで子供たちの方を見ていました。ところが、地域の方や見守り隊などが出迎えてはいますが、数がいつもより少ないなと感じました。コロナに対する感染の考え方がそれぞれ違うのだから仕方がないのですが、逆に子供たちの方がしっかりしていて、歩き方、いわゆる手をあげて行かなければダメだよといったところで、子供たち自身がすごいと思いました。これは学校の教えが行き届いているのだろうと感じました。もう一つ感じたことが、学校訪問に行ったときに心配したことが、今までのグループ学習とか子供たちの相談をしながらの勉強してきた事が、相談できなくなっていました。隣と隣の仕切りが無いとだめなんですよ。同じ方向を見て授業を受けていました。当たり前のことですが、これからはグループになることはない、今までの教育の在り方を変えていかないと大変かなと思います。心配する親がでてくる可能性があるなと思いました。インターネットとかICTの活用はあっても、ただそれだけでいいのかとも感じました。今後は、学習の在り方を変えていかなければならないと感じました。

(齊藤委員) 1月からコロナということで、子供たちも含めて私たちも生活が本当に変わってしまったと感じています。特に子供たちに関しては、卒業式・入学式もあったわけですが、時間短縮でご来賓の方もいない、寂しい卒業式や入学式は子供たちにとってはかわいそうだったかなと思います。それ以降も学校に行けない日が何カ月も続き、家に子供が居る状況というのが、家庭でも慣れていない、子供たちも含めて保護者の方にも不安があったのではないかと思います。その期間、学校からはこまめに課題を出していただいて、その課題には二次元バーコードがついてあり、バーコードをスマホで読み込んで動画で学習する場面が出てくるという、そこが今どきというか、リモートなのかなと感じたところです。先生方から電話をいただいたり、家庭訪問していただいたことで安心感がありました。また、新庄市でもコロナに感染された方が出た時にいろいろ風評被害もありまして、これからはGOTOキャンペーンが始まるわけですが、東京も開放になり経済が回る反面、感染リスクももしかしたら高まる中で、子供たちへの風評被害のご指導があったわけですが、大人の私たちもしっかりとした意識を持っていかないと、いつどこで感染するかわからないし、かかった方も加害者・被害者だと思うので、その方たちに風評被害が及ばないような意識を持っていく必要があると思います。議題の中にも、保護者との連携についてという部分がありましたが、PTA活動も停滞していて集まる機会がありませんが、学校の方と連携を図って対応ができればと思います。議題の1番目のICTの有効の活用のところでは、家庭環境において対応をしっかりしていかなければならないなと感じたところです。また、子供たちが学校に通うようになって、地域が明るくなったと思います。子供たちが通う姿は、本当に地域にとっては、すごいエネルギーだと感じました。

(教育長) コロナが発生してから、学校の存在が改めて認識されたと思います。学校でなければ経験できないことを学校でしなればならないのだと思います。そこを肝に銘じて、学校の教育活動をしていかなければならないし、先生方もそれを感じていただけたと思います。子供たちはあまりにも休みが長かったので、「早く学校に行きたい」といった声が聞こえていたわけで、学校に期待があって、子供の気持ちも大事にしていかなければならないと思います。だからこそ、行事も中止していますが、集団で、みんなで作り上げて何かをやり遂げるとか、みんなで解決していくとか、みんなで関わっていくということを大事にしていかなければならないと思います。コロナ禍の授業は、

新聞記事では先生が一方向的にスピードアップしてわからないとありました。コロナ禍の授業というのは、言うのは簡単ですがいろいろ難しいと感じています。学校の存在は大事であり、学校に行きたいという気持ちを大事にする、先生も子供も保護者も認識したと思うので、それを活かした教育活動にしていきたいものだと感じました。

(奥山委員) 休みになって1年生の保護者は不安があったらと思います。それから、家にいても誰もいない人と、家に誰かが居ていろいろなことを体験させてくれる家庭では、休みの間に少し格差があったのではないかという思いもありました。子供たちが学校に通うようになって見守りをしていると、かなり順応するのが早いと思いましたが、最初のうちは学校でも自由に遊ぶことが出来なさそうで、つまらなそうだなとも思いました。学校訪問に伺ったとき、学校ではきめ細かな対応をなさっていて、このようにして頑張ってくださっているということがわかり、子供たちも無事に学校生活を送ることができているので、本当にすごいと思いました。コロナは無症状でわからないところがあるので、すごく怖いと思いますし、すべてのリスクを取り除くのは無理だと思っていましたが、中体連は手立てのおかげで実施できて、3年生が頑張りを発揮することができて良かったと思います。できなかった種目もあるとのことですが、やればできるというのが見えたと思いました。機器を使った学習が休みの時には必要になるとは思いましたが、今まで子供たちを見ていて、集団で行くことや行事で力を付けていく事もすごく大事なことと思うので、機器を活用することと集団での学習の両方を向上していけばいいといった「きっかけ」にもなったのかなという思いも持ちました。

(阿部委員) まずは卒業式・入学式に出席できなかったというのは初めての経験です。保護者の方々はご覧になれたとのことですが、いつもと違う1年の終わりとこれからの始まりを、教育委員として、一人の社会の先輩として子供たちの姿を見られなかったことが非常に残念に思います。中体連は田川地区と新庄地区は、先生方の努力のおかげで実施できて、子供たちにとって、スポーツで自分たちが磨いてきた体力や技が発揮できる場が失われなくて良かったと思いました。私は体を動かすべきと思いました。やはりウイルスに感染しないためには、自分の体力をつけるべき、体のことを考えていくべきと思いました。目に見えない敵と戦うには、自分の体を大事にしなければいけないし、これから寒くなってインフルエンザとも戦わなければならないわけですが、コロナウイルスは対処方法が今のところ無いわけで、早くワクチンの開発をしてほしいところです。With コロナという言葉があるとおりに、コロナに対してきっちり対処できる方法考えなければならない。学校訪問の取組を見て、ここまで徹底してしなければならないのか、With コロナの時代に学校はこうあるべきだと感じました。うがいと手洗いは基本であると思います。それは、子供たちがしっかり守っているし、登校する様子を見ても、子供たちが一番マスクをつけている。先生方の指導があればこそだと思います。コロナが退散するまでしっかり見届けて、また先生方に指導をお願いしなければいけないのかなと感じました。

(市長)「IT 授業と家庭での有り方」「学校での取り組み方の工夫がいるのではないか」との意見ですが、まさしく、このコロナから今後の学校の有り方というのは、すごく研究されるべき課題なのではないかと思いました。今日、南陽から IT を活用した授業のデモンストレーションに来てくれて、山形、天童、長井の各クラスに出向いて、リモートワークのやり方など、先生に代わって、授業に

入ってきて、そのやり方を教えている。プログラミングを開発して、中学校に入る前からキーボードを押すことからプログラミングを子供たちの中に引き込んでいる。今後採用されるかは別の問題だが、そういう時代が来ているのは確かだと思いました。今の子供たちがなりたい職業は YouTuber だと。逆に言うと、IT から様々な多様性が出てきている。昔だったら、いつまでもテレビゲームをしているなど怒られたが、今はそういうこともない。多種多様に認められるようになったのかなと思います。子供だけではないと思いますが、大人の扱いを迫られているのだと思います。今後「グループ学習が出来ないかもしれない」となれば、今後の子供たちの教育の有り方をどのようにしていくのが良いか。今後の学習をイメージした時に、学校にこんなことが必要と思うことがあれば、ご意見をいただきたい。

(山村委員) 難しいですが、今までは集団の中でいろいろな意見を出させる・出せるという授業の在り方が個を伸ばし、集団の中でそれぞれの子供の能力を活かしていくという考え方でしたが、集団での学習ができないとすれば、自分で何とかする力をつけて行かないとダメではないかと考えます。その手段についてはパソコン、あるいはゲーム。遊びながら英語を話したり、計算したり、それから言葉の使い方を覚えたりするようなソフトがあります。ソフトを使いながら、子供に応じた、一人ひとりの個性に応じた学習の仕方があるのではないかと思います。一方では機器に頼らないで、自分なりに図書館で本を選んで持ってきて、それを先生や周りの子供たちからアドバイスを受けながら読んだり理解していく学習の仕方もあるのではないかと考えています。まだはっきりしたイメージはありませんが、市長が言われたように子供の興味に応じた学習の仕方があるのではないかと思います。

(斉藤委員) イメージしづらいですが、私たちも会えない場合は、会議といってもズームでお互いに顔をみながら行っているという状況で、画面の中でやりとりという形になっていくのですが、そうすると、その場にいらなくても、立席してもわからないようなソフトもあって、難しいのではないかと思います。先生とあって、ぬくもりを感じながら、体温を感じながら学習できるのが、学校の良さなのかなと思いますので、リモートだけになってくるとどうなのかなと、反面怖いような感じもします。

(奥山委員) 端末や機器を使うと、個人差に対応するのが楽になるのではないかと思います。ソフトがちゃんとあれば個人の能力に合わせてどんどん進み、分からない子は立ち止まりながら何回もやれる。そういう機能があれば、子供たちの個人差にあわせてプリントを何枚も用意することもないし、学校でも学習が進められる。個人の時間で学習できる。機器だけでは怖いという感じがするので、最初に学習する時はいろいろな意見を出し合える時間も必要で、いろいろな人の意見を聞くとか尊重するという時間も必要だと思います。本当に小さい時から機器を使い慣れてしまって、子供たちが体を動かすとか土に触れるとか、危ない目にあうとか、子供とぶつかり合うとかということがなくなっていくような気がして、尚更、体験のような学習を大事にしていけないとダメなのかなと。幼稚園の先生の話などでも、子供たちに遊び尽くさせるという話があって、体を動かして頭も動かす時間を今まで以上に大切にしていけないといけないとも思います。

(阿部委員) 基本的にアナログ人間なので、ICT のような新しい教育に向けて詳しく話せないんですが、

逆に絶対必要なのは、一人1台の端末を持たせることが第一だと思います。幼児の頃から触っているか触っていないかで、最初は格差があると思います。始まりが小学校1年生だとすれば、そこから始まる子もいれば、精通した子はどんどん先にいけるだろう。子供たちに大人が慣れさせないといけないから、その教える先生方も精通しなければならないということが1番大事だと思います。若い先生方がより若い子供たちをどういうふうに指導していくのかということがありますが、その先生が年配の先生からどのように指導されたかも大事にしなければならない。野山を駆け巡れるのは、新庄・最上という素晴らしい土地があるからであって、これを使わない手はない。小中学校の修学旅行も、コロナ感染者の少ない岩手・宮城です。新庄は今のところ誰もいません、山形も誰もいませんという事をもっともっと言って、修学旅行を誘致したらいいと思います。この素晴らしい土地柄で、野山を案内できる人がどれだけいるかというと、年配の先生を退職した方しかいないことも寂しいことです。山を案内できる人が高齢化して、さて若い人達がどうついていくかというと、参加する方はそんなに多くない。やはりICTに精通する方を育てなければならないと思いますが、自然に親しむ元気な年輩の方は、もっともっとより大事にしなければならないと私は思います。情報がお互いに伝達できるようなことが、ICTの世界だと思います。電話で話すのも大事で、私は基本的にお話することが子供たちにとっても大事だと思います。文書やメールでやり取りするよりも、顔を見て表情を見てお話できる機会がなければいけないと思うので、ICT化に対してはバランスよく子供たちと先生が言葉で、目と目でお話できるような世界も重要ではないのかなと感じています。

(教育長) ICTを使うと個人差に応じてどんどん自分のペースでやれる、これは一つの狙いだと思っています。文科省は、ICTタブレットを導入することは「個別最適化」だということを言っています。自分でやれるペースで、自分の能力に応じながらやれるのがICTの狙いで、最大限活かすべきと思います。それを活かさなければ、ICTを入れる意味が無いのではないかと思います。入れるソフトの予算的措置も大事になってくると思います。ICTのソフトを使いながら、そして自分の意見を言い、その後お互いにみんなの意見が見られる電子黒板やネットを使ってグループで全員分を見たりする、対面しなくても行える授業スタイルもできるわけです。それらを先生方が使いこなせるかということが大事で、検証していかなければならないと思います。実際に今実践しているところがあるわけですから、「ICTでの学びあい」をする指導法を身につけていく必要があるし、やっていかなければならないと思います。個別にやる部分と、必ず皆で考えなければならない部分を単元レベルで考えていかなければならないと思います。私がよく議会でも言っていますが、教科書を見れば学びはひとりででき、答えも導き出せる。算数は解き方は全部書かれていますから、まず自分でさせてみて、分からないことを皆で考えていくという、メリハリを考えながらやっていく授業は必要だと思います。先生が説明しなければダメだという考えから脱していかなければならないと思います。教科書に書いてあることをそのまま説明するのではなくて、個々でやれることは個々でやらせて、分からないところ、どうしても一人でできないところは、先生が関わり、個の時間をもう少し大事にしていかなければならないという話をしています。自分でする部分とみんなで考える部分を振り分けていくことが大事なのかなと。それから、私も体験を学校でもっとしてほしいです。コロナ禍でもマスクをかけてだっで行えると思います。体験する場面を学校で大いに仕組んで行く必要があるのではないのでしょうか。ある雑誌にこれからコロナ禍に備えるために、3つの事が大事だといっています。1つ目は子供を勉強好きにすること。2つ目はICTの整備と活用をしていくこと。そして3つ目は保護者との信頼関係を上げること。このコロナ禍では、一番、セルフマネジメント

をつけることが大事で、自分で自分をコントロールする、そういう力を養うことが大事だと思います。

(市長) GIGA スクールこそ、国としては前倒しの形ですよ。全てのものが IC と繋がるという時代が来るということが、今回のコロナでまざまざと世界との差を見せつけられたということがすごく大きかったのかなと思います。いろいろな話を聞いて、一番は昔から言われる知徳体の形だと思います。知識も大事なところですが、人間的なところで体を動かして丈夫な体を作る。「個別最適化指導」その人の能力によって何回でも繰り返し聞ける、納得できるまで聞ける、先生方はおそらく理解していないが大多数は理解しただろうということで1歩前に進まざるを得ない、教科書のカリキュラムもあるだろうし、いつまでもそこにはいられない、残りの時間数もあるといったジレンマもあるのではないかな。これは良くも悪くもあと10年後なり20年後くらいに、この学習環境世代の子供たちにどんな教育が行われるのだろうか。教育の連鎖ということもあります。その学年で1番大事なことを学ぶ機会に、卒業式がない、簡素だ、入学式も遅れた、祝ってくれる人もいないといったことが、思い出話としていければいいが、教育環境の不満とか、あの時は何だったんだろう、致し方ないと思いつつも授業料を払いながら、学校に1回も行っていない、そういう社会ができた時の次の子供たちを受け入れる10年後20年後の学校は、どうなるんだろうかと思います。いい方向に進んでくれればいいですが。家庭での不満の会話を子供たちは耳にしている、教員の方たちが、また周りがどれだけサポートできるか。将来に向けて、社会環境の中で出来ないことが出来るようなサポートをするということが、教育現場の中で求めていると思う。連続性の中にあるわけで切り抜いているわけではないので、今の子供たちの環境でお話いただければと思います。

(奥山委員) 今回の学校が急に休みになった時に、勉強でもなんでも自分で決めてやっていかなければいけない状況になったと思います。自分で決めてやる、そういうのを小さい時から自己決定とかもあると思いますが系統的に大事にして、上からいつも言われてやるとかではない育て方をしないと、これからの子供はだめなのかなと。私たちは先生から言われたことをちゃんとやればいいみたいな感じで来ましたが、自分でなりたいものになるためには何をしていくか、最初は自己決定で後は少しずつ計画を立ててとかがすごく大事になるのではないかとコロナの時期をみて感じました。子供たちの育ちも変わってくるのかと。一人一人がやり方を尊重していく教育が大事になるのかなと。最近高校では「探究」を行っていますが、自分の課題を追及していける子を狙っているのかなと思います。

(市長) 確かに探究型があつて、ここに機器が入ってくると、かなり環境的に変わってくるのだろうと思います。最適化教育にその機器がうまく利用される可能性はあると思います。実はある私立高校で県立よりも早くアクティブラーニングを取り入れ、問題が出てきたときは自由に机を並べて意見を言い合うと聞いています。またある高校では、受験生が増えたと聞いています。その校長先生は、高校時代にこの子たちをしっかりと育てあげると言っていました。その結果、ロボット大会の県代表2年目になっているそうです。そういう意味での教育環境、まさしく探究型の最たる授業をして、子供たちを褒める仕掛けをしています。去年10月に発表会があり、初めて子供の発表を見てきました。この仕掛けを周りに評価させ、子供たちに自信をつけさせていました。そして、今年は受験生が増えたそうです。そういうことを保護者なり子供は結構見えています。先に話をした私立高校の

ことも、保護者の方は情報を持っていて、今あそこの高校がいいと言っています。子供たちを高校に送り出す立場になると、上の学校への選ばせ方を今後は相当考えないといけないと思います。選ばれる学校にするために、私立の場合は、相当行っているなど感じました。どこまでそれが小中学校にあてはまるのか。日本で足りないのはお金の教育だそうです。中学校あたりの教育で、家族のお金とか働くとかについて学ぶことがひとつの動機付けになるのではないのでしょうか。そのためには、勉強でどのようなスキルを学ばなければならないか。勝手に探せというのはすごく難しいような気がします。本をいっぱい読んでそこから選んでこれになってみようと思う人ばかりではないと思います。生きる力というのが必要だと私は思います。子供たちが最終的には、義務教育が終わって高校や大学に行った後、どうやって生きるのか、何ができるか、どれを選ぶか、どう自己表現していくのかが大事なのではないのでしょうか。

今後、子供たちは、ITを使い、個性を伸ばしながら、集団の中で学ぶ力も身に付けていく必要があるだろうと思います。知徳体バランス良く育った子供たちの成長を見守る教育委員会になるだろうなと思ったところです。

(阿部委員)市長からは動機付けという言葉がでましたが、40年前の大学野球部などは甲子園に行って、社会人野球に行く、あわよくばプロ野球に入るんだと決めていました。それが、6大学のように何とか身を立てたいというモチベーションを持って皆さん取り組んでいるから、お子さんが全国に散らばっているというのが昔と違うことだと思います。

(市長)スポーツで大学に入る子たちは、すごいモチベーションを持って行くわけですね。就職する時は一部上場とかに入りますよね、またそういった方を会社も求めていますよね。

新しいコロナ禍の、今回の経験を是非プラスの方に活かして、新庄市の子供たちが意欲を持って授業や様々な活動に参加してくれるよう、お願いしたいと思います。

これで協議を閉じさせていただきたいと思います。

#### 4. その他

特になし

#### 5. 閉会

午後5時02分閉会する。